沈没漁船引き揚げ早く

第11大栄丸乗組員の家族から要請を受けました

日本共産党

第11大栄丸乗組員の家族の要請を受ける市田書記局長（右から2人目）と山﨑かずひろさん（左から4人目）

第11大栄丸乗組員の家族と支援者が7月3日、国会内で日本共産党に要請を行い、日本共産党から市田忠義書記局長が対応し、仁比聡平、紙智子両参議院議員、山﨑かずひろ党平戸支部生活相談所長が同席しました。

市田書記局長は「人命にかかわることはお金の問題ではない。こんな状態では漁業の後継ぎもできない。再発防止のためにもみなさんの当然の要求を実現できるよう党派を超えて力を合わせてがんばりたい」と述べました。

市民アンケートにご協力ください

ただいま、市民アンケートを行っています。くらしや雇用のこと、市や県、国への要求など、別紙のアンケート用紙に書いて、投かんしてください。（切手はいりません）

またお困りごとやご要望がありましたら、お気軽にお電話ください。

日本共産党平戸支部生活相談所長　山﨑かずひろ

電話　080－1002－2248　または0950－23－8021

ひらど民報　2009年７月　発行 日本共産党平戸支部　発行責任者 山﨑かずひろ　平戸市岩の上町214－1 ☎(23)8021　日本共産党平戸支部の見解を紹介します。

自公政権から新政権へ 国民が新しい歴史のページ開く

建設的野党で頑張ります 日本共産党

「自民党はあんまりやったけん、自公政権が負けてよかった」「これで本当に政治が変わってほしい」――衆議院選挙で自公政権が退場し、9月16日、鳩山新政権が発足しました。日本共産党は自公政権の退場を心から歓迎するとともに、新しい日本の政治の始まりを、国民の共同した力でさらに前にすすめていくために、力を尽くします。

「良いことには協力。悪いことには反対。問題点はただす」立場

新しい国会で日本共産党は、建設的野党という立場で頑張ります。

9月10日に民主・共産の党首会談が行われました。

○共産・志位和夫委員長――「良いことには、新政権と協力して実現をはかりたい。そのさい、より良いものにしていくための修正点も提起していきたい。妨害する動きにたいしては共同してたたかいたい」。

○民主・鳩山由紀夫代表――「良いもに協力するということは、ありがたいことで感謝する」「意見のあるものに最後まで反対するのは当然だ」。

日本共産党は悪いこと――憲法9条の改定や消費税の増税などにはキッパリ反対。高速道路の無料化や子ども手当などについては大きな不安もだされており、国民的な議論が大切だと思っています。

新政権と一致する公約はただちに実現へ

◆労働者派遣法の抜本改正
――働く人の3人が非正規雇用。ヨーロッパでは1割。

◆後期高齢者医療制度の廃止

◆障害者自立支援法の「応益負担」の廃止

◆生活保護の母子加算の復活

◆高校授業料の無償化と返済不要の給付制奨学金制度の創設
――高校授業料が有料の国は、先進国では日本を含め4ヵ国だけ

◆時給1000円以上への最低賃金の引き上げ
――中小企業には行政からの援助を

さらにどんどん提案し実現めざします

■75歳以上の高齢者と子どもの医療費を、国の制度として無料に

■価格・所得補償で農業を守り、コメ1俵1万8千円を

■国の責任で、国保税の一人当たり1万円の引き下げを

私も建設的野党で頑張ります

党平戸支部生活相談所長

山崎かずひろ

略歴
1957年　五島・奈良尾で生まれる
1966年　家族で愛知県へ
1976年　高知大学に学ぶ
1976年　日本共産党に入党
1980年　生協職員
1989年　愛知県で日本共産党の職員に
1997年　東京で日本共産党本部職員
2007年10月　平戸へ
趣味：テニス　囲碁　釣り

国政報告会のお知らせ

民主党政権で日本の政治はどうなるのか。日本共産党は何をするのか。

日本共産党の国会議員が平戸市に来てお話します。一度日本共産党の話を聞いてみませんか。どなたでも自由に参加できます。

とき
10月4日(日)午後2時

ところ
平戸市離島センター

入場無料

話をする人

衆議院議員
赤嶺政賢

党平戸支部生活相談所長
山崎かずひろ

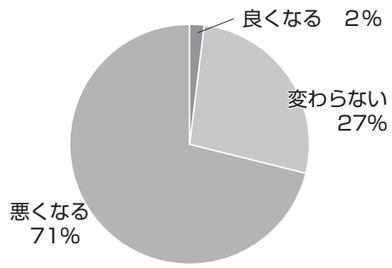
ひらど民報　2009年9月　日本共産党平戸支部の見解を紹介します。
発行　日本共産党平戸支部　平戸市岩の上町214－1　☎(23)8021

新しい市議会で行動し 実現するまで、とことん頑張ります

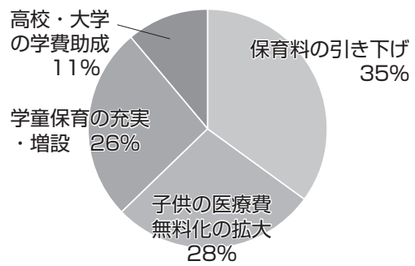
日本共産党平戸支部が行った市民アンケートに多くのご回答をいただきました。

ご協力、ありがとうございました。アンケートの一部を紹介します。

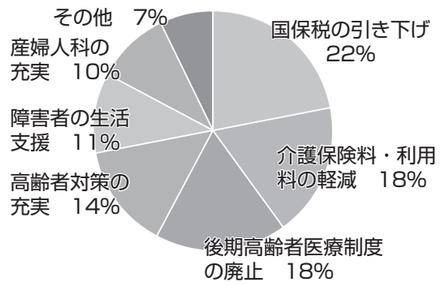
これからの暮らしについて



子育て・教育について のぞむこと



医療・介護・福祉のこと



市民の要求を聞く山﨑かずひろさん

この願いをまっすぐに市政に届けます

党平戸支部生活相談所長
山﨑かずひろ

「もう生活ができない」とたくさんの人から相談をうけました。私も貧しさの中で育ちました。わが家は長屋の大家さんからいただく野菜に助けられました。

困っている人のご苦労が痛いほどわかります。だからこそ、現場に飛んで行って解決のために力を尽くしています。

市民の暮らしを守るのは政治のもっとも大事な役目。みなさんの願いをまっすぐに議会に届けたいと思っています。

◆国保税の1世帯1万円の引き下げを

国保加入世帯は6900世帯。昨年の国保会計は7000万円の黒字。国保の基金は8億1千万円にふくらんでいます。この一部を活用すれば、引き下げはできます。

◆子どもの医療費を中学校卒業まで無料に

いま、子どもの医療費は小学校就学前まで無料。中学校卒業までに引き上げをめざします。松浦市では来年4月からの実施を準備中。予算は約1700万円とのこと。

◆日米FTA（自由貿易協定）に反対して、日本の農業を守ります

日本のコメの82%が激減・大打撃を受ける日米FTAは、やめるべきです。合わせて日豪FTAの交渉も中止すべきです。

財源は

- 大事な市の予算。暮らしや教育、地場産業応援を優先します。
- 市長などの特別職6人には2年・4年(任期)ごとに退職金が支給されます。これを見直します。
- 公用車を高級乗用車からワンボックスカーなどに変えます。佐世保市や松浦市でも実施しています。
- 税金のムダづかいを徹底して追及し、改めます。

地元・上大垣自治会長さんから激励メッセージをいただきました

イデオロギーの違いはあるものの、彼の政治に対する情熱は揺るぎないものを感じました。少数激戦が予想されています。どうか山﨑一洋氏を議会に送り出していただきますよう、お願いいたします。ご健闘をお祈りいたします。

（上大垣自治会長）

要望書を鳩山総理大臣と平戸市長に届けます

2つの要望署名にご協力ください。署名用紙は返信用封筒に入れて送ってください。切手は不要です。

◆子どもと高齢者の医療費の無料を求める署名

◆中学生までの医療費の無料化を求める署名

田平町のみなさんの声をまっすぐ議会に届けます
山﨑かずひろは、全力で頑張ります
（党生活相談所長）

日本共産党

「もっと田平の活性化のことを、取り上げてほしい」「合併して不便になったことが多い」などの声が出されています。

合併して4年。田平町のよさをもっといかした平戸市政のために、日本共産党は新しい議会でどんどん発言し、みなさんの声をまっすぐ議会に届けます。

今期4年間の議員の一般質問 2/3の議員が半分（7回）以下です

議員の一番大事な仕事は議会で発言すること。なかでも一般質問は「議員の固有の権能」（議員必携より）で、もっとも大事なことです。

現在の市会議員の一般質問回数は、次の通りです。

16回	2人
14回	1人
13回	1人
8回	5人
7回	4人
6回	4人
5回	3人
3回	2人
2回	2人
0回	3人

田平町のみなさんからご意見をお聞きしました

○子どもの予防接種は前は個人通知だったが、今は予定表だけ送ってきて、なんだか市民に冷たい行政になった気がする。もっと、市民に暖かい政治を願います。（40代女性）

○大きなイベントは平戸市中心部で行われ、人の流れは田平には来ない。せっかく合併したのだから、旧市と交流が出来るようなイベントを田平にも持ってきて欲しい。（40代男性）

○合併後は、ますます客足が遠のいてしまった。もっと田平の町の活性化を図って欲しい（飲食店主）

○松浦市では来年4月から中学校卒業まで医療費を無料にすると聞いた。平戸市でも早く実現して欲しい。（30代女性）

○国保税が高い。さげてほしい。（60代男性）

○水道料金がとても高くなって困っている。保育料が高い。何とかして欲しい。

平戸大橋・生月大橋の通行料は無料に 職員は県と市が責任持って仕事の保障を

平戸大橋や生月大橋は市民生活に欠かせない大事な橋。平戸大橋は償還も終了しており、通行料は無料にすべきです。松浦市の鷹島大橋の通行料は最初から無料。生月大橋の通行料も無料にしましょう。

長年、橋を支えてこられた職員のみなさんの仕事は、県や市が観光協会ともよく話し合い、責任をもって確保すべきです。解雇は絶対に許してはなりません。

山﨑かずひろさんは頼りがいのある人

元田平町議　末武　九州男

みなさん。こんにちは。ごぶさたいたしておりますが、お変わりありませんか。

この度、私の後を受けて山﨑かずひろさんが、「市民が主人公」の市政をめざして頑張ることになりました。彼は幼いときから苦労をしてきた人で、だから困った人のことは、自分のことして親身に相談にのるなど、ふところのあったかい人です。また苦労をバネとして努力を重ねてきた頑張りやです。市民の代表として真面目に頑張ることができる人だと思っています。

みなさんのお力添えを心よりお願いします。

議会には共産党の議員が一人はいてもらいたい

市が独断で行政をすすめることにストップをかけるためにも、議会を浄化するためにも、共産党の議員が一人はいてもらいたい。

（元田平町幹部）

ひらど民報　2009年10月　日本共産党平戸支部の見解を紹介します。
発行　日本共産党平戸支部　平戸市岩の上町214－1　☎(23)8021　ブログ「平戸日誌」検索

貧しさなくして笑顔をみんなで

山﨑かずひろさんとはこんな人です

五島・奈良尾で生まれる

山﨑かずひろさんは1957年（昭和32年）五島・奈良尾で生まれました。両親の愛情のもとすくすく育ち、南松浦郡の赤ちゃんコンクールで優勝しました。（写真）

しかし家は食べていくのがやっとで、「大人になったら腹一杯ご飯を食べたい」と毎日思っていました。「これでは子どもを学校にやることもできない」と、9歳の時に家族そろって愛知県に引っ越しました。

貧乏でも家族みんなで助け合った
――小学生から新聞配達のアルバイト

愛知県に引っ越しましたが、お父さんはトヨタの期間工。朝4時から新聞配達をして会社へ。山﨑さんも弟といっしょに夕刊の配達をして、家計を支えました。家はトイレも共同の長屋。大家さんが親切な農家だったのでたくさんの野菜をもらい、本当に助けられました。

ある日、お母さんがお金がなくて郵便局で、東京オリンピック記念の千円硬貨を換金。「父ちゃんに言うたらいけんよ」と言ったお母さんの言葉が、今でも忘れられないそうです。

お父さんが期間工から正社員になるまで4回転校しました。それだけに今の派遣切りや期間工切りのことが、自分のことのように感じています。

◀新聞配達で家計を支えていました

食料危機を思い高知大学農学部へ
日本共産党と出会う

中学時代はテニスに没頭。高校では弓道部。地区の大会で団体入賞。スポーツはなんでも大好き。高校生のとき、世界中で食糧危機が叫ばれ、このままでは日本でも世界でも、やがて食糧危機が来ると思い、猛勉強して高知大学農学部に入学しました。

そこで日本共産党と出会い、「貧困をなくしたい」との決意で入党しました。大学で勉強をするなかで生協運動にひかれ、大学を中退して名古屋の生協に勤めました。

◀高知大学時代、「よさこい祭り」で

平戸に引っ越してすぐに議会傍聴と、生活相談活動

日本共産党の要請に応え32歳の時に、日本共産党の職員になり、「しんぶん赤旗」の仕事や国会議員の秘書をつとめました。

2007年10月、平戸に家族みんなで引っ越してきました。その年の12月市議会から議会を傍聴し、その後も毎回傍聴しています。

相談を受けたらすぐに現場に飛んでいって、いっしょに泣いたり笑ったり。役所に行ったり法律の専門家に聞いたりしながら50件を超える相談を受けてきました。

「山﨑さんに相談して、やっと階段の手すりがつきました。本当に助かっています」「そういうことは山﨑さんに相談してみたらと、友だちから紹介されました」と、どこに行っても頼りにされている山﨑かずひろさんです。

▲志位委員長と（2007年・長崎市）

上大垣自治会（平戸・岩の上）で会員のみなさんと活動

昨年、平戸市岩の上町の上大垣に引っ越して来て、平戸市に永住することにしました。すぐに上大垣自治会と青壮年会に参加させていただき、みなさんといっしょに空き缶拾いやまつりなど、楽しく活動させていただいています。

市民の声をしっかりと議会に届けるために、いっそう頑張る決意です。

10月18日 日本共産党の議席の復活で 市民の声が届く市議会を

「平戸でもはっきりものが言える共産党が一人はほしかね」と、日本共産党の議員を待ち望む声が聞かれます。何のしがらみもなく、市民の声をまっすぐ議会に届ける日本共産党。暮らしと福祉の願い実現に全力をつくします。

国保税の1世帯1万円の引き下げを

たまっている国保税の8億円（基金）。この一部を活用して、1世帯1万円の引き下げを実現します。

これから新型インフルエンザの流行の時。国保証がない世帯に直ちに保険証を交付して、予防を急ぎます。

＊

中学校卒業までの医療費を無料に

松浦市では来年4月から中学校卒業までの子どもの医療費が無料（助成制度）になります。平戸市でも実現して、子育て世代を応援します。

＊

一人親世帯の入学祝い金制度の復活を

思いやりいっぱいの一人親世帯の入学金祝い制度。この大事な制度が、議会ではみんなの賛成で無くなりました。今度は復活させ、福祉の心をとりもどします。

＊

平戸・生月大橋の通行料は無料に

平戸大橋も生月大橋も市民にとっては大事な生活道路（橋）。松浦市の鷹島大橋は最初から無料です。大橋の通行料は無料にしましょう。

また、橋で働く従業員の雇用は、県や市が責任をもって、観光協会とも話し合って確保すべきです。

＊

日本共産党はお約束します 毎議会での一般質問を

議員の一般質問が非常に少ない今の議会。日本共産党は江迎町でも佐々町でも佐世保市でも毎回一般質問をしています。

日本共産党の新人は毎回一般質問をして、市民の声をまっすぐ議会に届けます。

共産党の議員がいれば議会が活発になる

共産党の議員が議会にいると、議会が緊張し活発になります。議会を浄化するためにも共産党は一人はいてもらいたい。　（元田平町幹部）

ひらど民報　2009年10月　日本共産党平戸支部の見解を紹介します。
発行 日本共産党平戸支部　平戸市岩の上町214－1 ☎(23)8021 ブログ「平戸日誌」検索

市民のために力を尽くすのが立党の精神です

日本共産党新人

暮らしの立て直しを新政権に迫ります

日本共産党が7月に行った市民アンケート。そこには市民の切実な願いと思いがいっぱい書かれていました。日本共産党の新人は、新しい政権に暮らしの立て直しを迫っていきます。

○我々の生活がもっと楽になるような事を期待しています（70代男性）

○税金の無駄遣いをしないで欲しい。働きたくても就職口が無いので雇用の対策をして欲しい（30代女性）

○高齢者や低所得者などの弱い立場の人に優しい政治をして欲しい。無駄づかいをやめて欲しい（60代女性）

（アンケートから）

後期高齢者医療制度の廃止を

後期高齢者医療制度の廃止を打ち出した新政権。しかし最近ではトーンダウン気味です。国民の声を集めて、後期高齢者医療制度の廃止を実現しましょう。

国の制度で

子どもと高齢者の医療費を無料に

3割の窓口負担をとられる国は、先進国では日本だけ。窓口負担ゼロをめざして、まずは就学前の子どもの医療費の無料と、75歳以上の高齢者の医療の無料をめざします。

労働者派遣法の抜本改正を

働く人の3人に1人が非正規雇用。なかでも若者は2人に1人が非正規雇用です。「正社員が当たり前」をめざして、労働者派遣法の抜本改正を。

平戸市に福祉の心を取りもどします

○入学祝い金制度打ち切りに一人も声上げず

長く続いてきた一人親世帯の入学祝い金制度（小・中学校入学時に1人3000円のお祝い）。この制度の打ち切りに、市議会では誰一人として声をあげませんでした。

日本共産党の新人は、市政に福祉の心を取りもどすために力を尽くします。

○市民のよき相談相手として

「どんなことでもよく聞いてくれて、最後まで面倒見てくれます」と、日本共産党の新人にたくさんの生活相談が寄せられています。

日本共産党は市民のために力を尽くすことを、党の一番大事なこと＝立党の精神としています

「私は共産党員ではないけど、私たち商売人の利益を守って本当に頑張ってくれています。企業からお金をももらわないので、何事にもまっすぐですね。政党助成金ももらっていないし」（飲食店主）

親身に相談にのってくれる…

政治は誰がなってもいっしょと思っていたけど、困ったことに共産党が親身になって相談にのってくれ、共産党というものを知りました。（子育て中の女性）

市議会を変えたい

その思いは日本共産党の新人へ

「共産党が議会に入って新しい風を吹き込んでほしい」（岩の上町・女性）「共産党の議員が議会にいると、議会が緊張し活発になる。共産党は一人はいてもらいたい」（旧田平町元幹部）と、日本共産党の新人に大きな期待が寄せられています。

10月18日 大事な選択の日

日本共産党新人の 3つの約束

その1 市民の暮らしと福祉を守る

「もっと市民の目線に立って欲しい」「暮らしに役立つようにしてもらいたいです」と、議員に大きな期待が寄せられています。

（共産党の市民アンケート・「議員に何を期待しますか」より）

日本共産党の新人は新しい議会に、市民の声と願いをどんどん届け、「福祉の心」を取りもどします。

○国保税の1世帯1万円の引き下げを（国保の基金8億円を活かします）

○中学校卒業までの医療費の無料化を

○一人親世帯の入学祝い金制度の復活を

その2 税金のムダ使いをチェックする

財政がきびしい中、副市長を2人にしたり、新たに生月と大島だけに区長を設けたり。しかも市長はじめ6人の特別職の退職金は4年ごと、2年ごとに支給。こうした制度を改めます。大事な税金の使い道をチェックし、市民の暮らしと福祉優先に使います

その3 毎回一般質問をする

一般質問は4年間で16回。しかし、今の市議会では半分も満たない7回以下の議員が8割以上。これで市民の声が議会に届くのでしょうか。

日本共産党の新人は毎回一般質問をして、その結果をビラなどでお知らせします。

ひらど民報 2009年10月 日本共産党平戸支部の見解を紹介します。
発行 日本共産党平戸支部 平戸市岩の上町214－1 ☎(23)8021 ブログ「平戸日誌」検索

市民のよき相談相手
何事にもハッキリものが言える

日本共産党新人

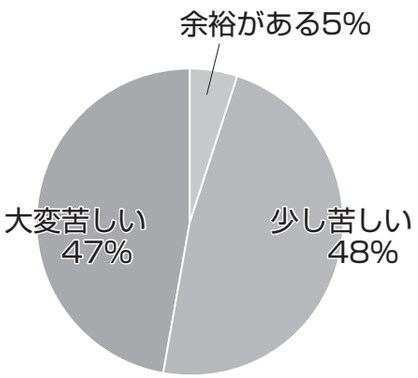
いつでも、どこでも、親身になって相談

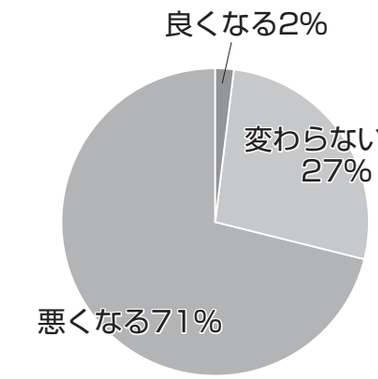
「生活ができない。助けてください」「掛け金が1年足らず、年金がもらえない」「歩道が狭すぎてベビーカーを使えない」など、日本共産党の新人に、市民からの相談事が毎日のように寄せられています。

相談事に正面から向き合い、解決するまでとことん頑張る、それが日本共産党新人です。

よいことには賛成 悪政にはきっぱり反対

日本共産党平戸支部が行った市民アンケート。暮らしは本当に大変です。





「こんなに暮らしが大変なのは、政治の問題です」と、市民の暮らし応援に走りまわっています。

企業・団体献金も、政党助成金も受け取らない日本共産党。だから日本共産党新人は、何のしがらみもなく、市民の立場でズバリものが言えます。よいことには賛成、悪政にはきっぱり反対します。

市民のために力を尽くすのが信条

「前いた共産党の議員さんは、本当にいい人で、私たちのことをよく面倒みてくれた」と、西村猛・元市議のことが、いまでも語られています。

日本共産党の信条は、市民のために力をつくすこと。共産党の新人は、市民の暮らし第一で頑張ります。

「私は共産党員ではないけど、私たち商売人の利益を守って本当に頑張ってくれています。企業からお金をもらわないので、何事にもまっすぐですね。政党助成金ももらっていないし」（飲食店主）

親身に相談にのってくれる…

政治は誰がなってもいっしょと思っていたけど、困ったことに共産党が親身になって相談にのってくれ、共産党というものを知りました。（子育て中の女性）

市民の声をもとに 新しい市議会でどんどん発言します

日本共産党

「もっと私たちの声を議会に届けて欲しい」「もっと活発な議論を交わして欲しい」などの声が出されています。

議員が議会で活発に議論してこそ、平戸の政治が変わっていくのではないでしょうか。

日本共産党の議員は江迎町でも佐々町でも、佐世保市でも毎回一般質問をしています。新しい平戸市議会でも毎回一般質問を行います。

今期4年間の議員の一般質問

2/3の議員が半分(7回)以下です

議員の一番大事な仕事は議会で発言すること。なかでも一般質問は「議員の固有の権能」(議員必携より)で、もっとも大事なことです。

現在の市会議員の一般質問回数は、次の通りです。

16回	2人
14回	1人
13回	1人
8回	5人
7回	4人
6回	4人
5回	3人
3回	2人
2回	2人
0回	3人

(党生活相談所長) 山崎かずひろは、提案します

■国保税の1世帯1万円の引き下げと、すべての世帯に保険証の交付を

「国保税を少しでも下げてほしい」――国保の基金の一部を活用すれば一世帯1万円の引き下げはできます。

これから新型インフルエンザの流行の季節。新型インフルエンザ対策として、資格証明証世帯(保険証がない世帯)に短期保険証の発行を。岡山市でも発行が始まっています。

■市発注の事業は労働者が生活できる賃金に

市が発注する公共事業や業務委託などの「公契約」に携わる労働者に、市長が定める最低額以上の賃金を支払わなければならないようにします。千葉県野田市で条例ができました。

■平戸大橋・生月大橋の通行料は無料が当然です。職員は県と市が責任持って仕事の確保を

平戸大橋や生月大橋は市民生活に欠かせない大事な橋。平戸大橋は償還も終了しており、通行料は無料にすべきです。松浦市の鷹島大橋の通行料は最初から無料。生月大橋の通行料も無料にしましょう。

長年、橋を支えてこられた職員のみなさんの仕事は、県や市が観光協会ともよく話し合い、責任をもって確保すべきです。解雇は絶対に許してはなりません。

山崎かずひろさんは頼りがいのある人

みなさん。こんにちは。ごぶさたいたしておりますが、お変わりありませんか。

この度、私の後を受けて山崎かずひろさんが、「市民が主人公」の市政をめざして頑張ることになりました。彼は幼いときから苦労をしてきた人で、だから困った人のことは、自分のことして親身に相談にのるなど、ふところのあったかい人です。また苦労をバネとして努力を重ねてきた頑張りやです。市民の代表として真面目に頑張ることができる人だと思っています。

みなさんのお力添えを心よりお願いします。

元田平町議　末武九州男

議会には共産党の議員が一人はいてもらいたい

市が独断で行政をすすめることにストップをかけるためにも、議会を浄化するためにも、共産党の議員が一人はいてもらいたい。

(元田平町幹部)

ひらど民報　2009年10月　日本共産党平戸支部の見解を紹介します。

発行 日本共産党平戸支部　平戸市岩の上町214－1 ☎(23)8021 ブログ「平戸日誌」検索

貧しさなくして笑顔をみんなで

山﨑かずひろさんとはこんな人です

五島・奈良尾で生まれる

山﨑かずひろさんは1957年（昭和32年）五島・奈良尾で生まれました。両親の愛情のもとすくすく育ち、南松浦郡の赤ちゃんコンクールで優勝しました。（写真）

しかし家は食べていくのがやっとで、「大人になったら腹一杯ご飯を食べたい」と毎日思っていました。「これでは子どもを学校にやることもできない」と、9歳の時に家族そろって愛知県に引っ越しました。

貧しさでも家族みんなで助け合った
――小学生から新聞配達のアルバイト

愛知県に引っ越しましたが、お父さんはトヨタの期間工。朝4時から新聞配達をして会社へ。山﨑さんも弟といっしょに夕刊の配達をして、家計を支えました。家はトイレも共同の長屋。大家さんが親切な農家だったのでたくさんの野菜をもらい、本当に助けられました。

ある日、お母さんがお金がなくて郵便局で、東京オリンピック記念の千円硬貨を換金。「父ちゃんに言うたらいけんよ」と言ったお母さんの言葉が、今でも忘れられないそうです。

お父さんが期間工から正社員になるまで4回転校しました。それだけに今の派遣切りや期間工切りのことが、自分のことのように感じています。

◀新聞配達で家計を支えていました

食料危機を思い高知大学農学部へ
日本共産党と出会う

中学時代はテニスに没頭。高校では弓道部。地区の大会で団体入賞。スポーツはなんでも大好き。高校生のとき、世界中で食糧危機が叫ばれ、このままでは日本でも世界でも、やがて食糧危機が来ると思い、猛勉強して高知大学農学部に入学しました。

そこで日本共産党と出会い、「貧困をなくしたい」との決意で入党しました。大学で勉強をするなかで生協運動にひかれ、大学を中退して名古屋の生協に勤めました。

◀高知大学時代、「よさこい祭り」で

平戸に引っ越してすぐに議会傍聴と、生活相談活動

日本共産党の要請に応え32歳の時に、日本共産党の職員になり、「しんぶん赤旗」の仕事や国会議員の秘書をつとめました。

2007年10月、平戸に家族みんなで引っ越してきました。その年の12月市議会から議会を傍聴し、その後も毎回傍聴しています。

相談を受けたらすぐに現場に飛んでいって、いっしょに泣いたり笑ったり。役所に行ったり法律の専門家に聞いたりしながら50件を超える相談を受けてきました。

「山﨑さんに相談して、やっと階段の手すりがつきました。本当に助かっています」「そういうことは山﨑さんに相談してみたらと、友だちから紹介されました」と、どこに行っても頼りにされている山﨑かずひろさんです。

▲志位委員長と（2007年・長崎市）

上大垣（岩の上）自治会で会員のみなさんと活動

昨年、岩の上・上大垣に引っ越して来て、上大垣に永住することにしました。すぐに上大垣自治会と青壮年会に参加させていただき、みなさんといっしょに空き缶拾いやまつりなど、楽しく活動させていただいています。

市民の声をしっかりと議会に届けるために、いっそう頑張る決意です。

大垣地区から地元に役立つ市会議員を

山﨑かずひろ（党生活相談所長）は全力で頑張ります

「もっと地元の要求をとりあげてほしい」「地元のためになる市会議員がほしい」などのご意見が、日本共産党に寄せられています。議員の仕事は市民の願いと声を、まっすぐ議会に届けることではないでしょうか。

今期4年間の議員の一般質問 2/3の議員が半分（7回）以下です

議員の一番大事な仕事は議会で発言すること。なかでも一般質問は「議員の固有の権能」で、もっとも大事なことです。

現在の市議会での一般質問回数は次の通りです。（一般質問は4年間で16回）

16回2人　14回1人　13回1人
8回5人　7回～5回11人
3回～0回7人

大垣地区のみなさんから寄せられた声を議会に届けます

○都市計画の区域と見直しをしてほしい。（60代男性）

○大膳原住宅の玄関前の溝にふたをしてほしい。（70歳の女性）

○松浦市では来年4月から中学校卒業まで医療費無料にすると、新聞で見た。平戸市でも実現すれば本当に助かる。（子育て中のお母さん）

○街灯を増やしてほしい。（60代男性）

○お金がなくて病院に行けない。1ヶ月分の薬を2ヶ月で飲んでいる。何か、補助はないのか。（70代女性）

○国保税が高い。さげてほしい。（50代男性）

○派遣の仕事で、給料も少なく仕事が半日の時もある。仕事をしたい。（20代男性）

地元の人の声をきく山﨑かずひろさん

上大垣自治会長さんから激励メッセージをいただきました

イデオロギーの違いはあるものの、彼の政治に対する情熱は揺るぎないものを感じました。少数激戦が予想されています。どうか山﨑一洋氏を議会に送り出していただきますよう、お願いいたします。ご健闘をお祈りいたします。

（上大垣自治会長）

故・西村猛元議員の市民への思いやりの心をしっかり受けつぎます

「西村さんに本当にお世話になった」「西村さんは最後まで面倒を見てくれた」などと、下大垣に住んでいた西村猛・元市議の話がどこに行ってもされました。市民の暮らし第一で頑張った西村さんを、今でも大事にしていただいている大垣地区のみなさんに、心より感謝します。

西村猛さんは1983年に初めて市会議員に当選しましたが、任期半ばにて病に倒れ、故人となりました。西村猛さんの市民への思いやりの心をしっかり受け継いで、地元・大垣地区のために全力をつくします。

地元のご意見、ご要望をどしどしお寄せください。

ひらど民報　2009年9月　日本共産党平戸支部の見解を紹介します。
発行 日本共産党平戸支部　平戸市岩の上町214－1 ☎(23)8021 ブログ「平戸日誌」検索

貧しさなくして笑顔をみんなで

山﨑かずひろさんとはこんな人です

五島・奈良尾で生まれる

山﨑かずひろさんは1957年（昭和32年）五島・奈良尾で生まれました。両親の愛情のもとすくすく育ち、南松浦郡の赤ちゃんコンクールで優勝しました。（写真）

しかし家は食べていくのがやっとで、「大人になったら腹一杯ご飯を食べたい」と毎日思っていました。「これでは子どもを学校にやることもできない」と、9歳の時に家族そろって愛知県に引っ越しました。

貧しでも家族みんなで助け合った
――小学生から新聞配達のアルバイト

愛知県に引っ越しましたが、お父さんはトヨタの期間工。朝4時から新聞配達をして会社へ。山﨑さんも弟といっしょに夕刊の配達をして、家計を支えました。家はトイレも共同の長屋。大家さんが親切な農家だったのでたくさんの野菜をもらい、本当に助けられました。

ある日、お母さんがお金がなくて郵便局で、東京オリンピック記念の千円硬貨を換金。「父ちゃんに言うたらいけんよ」と言ったお母さんの言葉が、今でも忘れられないそうです。

お父さんが期間工から正社員になるまで4回転校しました。それだけに今の派遣切りや期間工切りのことが、自分のことのように感じています。

◀新聞配達で家計を支えていました

食料危機を思い高知大学農学部へ
日本共産党と出会う

中学時代はテニスに没頭。高校では弓道部。地区の大会で団体入賞。スポーツはなんでも大好き。高校生のとき、世界中で食糧危機が叫ばれ、このままでは日本でも世界でも、やがて食糧危機が来ると思い、猛勉強して高知大学農学部に入学しました。

そこで日本共産党と出会い、「貧困をなくしたい」との決意で入党しました。大学で勉強をするなかで生協運動にひかれ、大学を中退して名古屋の生協に勤めました。

◀高知大学時代、「よさこい祭り」で

平戸に引っ越してすぐに議会傍聴と、生活相談活動

日本共産党の要請に応え32歳の時に、日本共産党の職員になり、「しんぶん赤旗」の仕事や国会議員の秘書をつとめました。

2007年10月、平戸に家族みんなで引っ越してきました。その年の12月市議会から議会を傍聴し、その後も毎回傍聴しています。

相談を受けたらすぐに現場に飛んでいって、いっしょに泣いたり笑ったり。役所に行ったり法律の専門家に聞いたりしながら50件を超える相談を受けてきました。

「山﨑さんに相談して、やっと階段の手すりがつきました。本当に助かっています」「そういうことは山﨑さんに相談してみたらと、友だちから紹介されました」と、どこに行っても頼りにされている山﨑かずひろさんです。

▲志位委員長と（2007年・長崎市）

上大垣自治会で会員のみなさんと活動

昨年、上大垣に引っ越して来て、ここに永住することにしました。すぐに上大垣自治会と青壮年会に参加させていただき、みなさんといっしょに空き缶拾いやまつりなど、楽しく活動させていただいています。

地元の声をしっかりと議会に届けるために、いっそう頑張る決意です。